



7月保健だより

保育園夢未来東雲園

H29年7月18日(火)

7月に入り、夏本番といった暑さになってきましたね。この時期は、熱中症や、日焼けが心配ですね。子どもたちはまだ体温調節が未熟なため大人より暑さの影響を受けやすいので、お出掛けの際は、帽子を被ったり、こまめな水分補給を忘れないようにしましょう。暑さで、疲れもたまりやすい季節でもあるので、この時期に負けない、元気な体作りをしていきましょう。

嘱託医 のずえ先生より

- ・手足口病が多くみられるようになっていきます。



※手足口病に感染した場合は、【登園届】の提出が必要になります。

受診をして、医師から登園の許可が出たら、保護者の方に記入して頂く書類です。

「とびひ」に注意

0歳で初めての夏を迎える子やアレルギー体質の子(虫に刺されやすい等)は虫に刺されたところがひどくはれてしまうことがあります。腫れたところが水ぶくれになったり、かき壊してしまうと、それがきっかけで「とびひ」の菌がついて、皮膚のあちこちにグジュグジュした発疹の様なものが広がってしまうので、注意が必要です。「とびひ」は体の免疫力、体力が低下していると悪化しやすく、薬の力を借りないとどんどんひどくなります。長引くと治療に時間がかかり、プールにも入れなくなってしまうので、早期発見・治療を心がけましょう。



◎まだまだある夏に多く見られる感染症

「夏かぜ」と呼ばれる感染症はいくつかあります。

夏は暑さで体力を消耗しやすく、抵抗力が減り、感染症にかかりやすくなります。

○ヘルパンギーナ

高熱 のどの痛み

口の中に水疱 (特に喉)

○手足口病

手足や口の中に小さな発疹、水泡

○咽頭結膜熱(プール熱)

症状 高熱 喉が赤い 喉が痛い

目が赤い(結膜炎)

○流行性角結膜炎(はやり目)

症状 目の充血 目の痛み 目ヤニ

まぶたが腫れ発熱することもある

Q 手足口病、ヘルパンギーナ、とびひ、水いぼなどは治癒してなくても保育園へ行ってもいいですか？

A、夏にかかりやすい病気で難しいのが登園届に区分されている感染症です。

例えば、手足口病やヘルパンギーナ等は受診した際に、治癒の状態を見て、集団生活に問題はないかをお医者様に診断して頂き、許可が出たらお預かりが出来ます。

とびひ、水いぼ等もジュクジュクしている状態や他のお子さんへの感染の問題がないか、診断を受けてください。また、とびひは接触すると他のお子さんへ感染しますので、洋服から出ている部位はガーゼ等で覆って登園してください。炎症がある場合は水遊びは出来ませんので、病院で水遊びの有無も確認してください。